

63 仙台御城覚書

宮城県図書館蔵

仙台御城覚書

山城無<sup>二</sup>天守<sup>一</sup>本丸ノ西南ノ

一、方ニ天守台有、

一、東ハ海、本丸ノ寅卯ノ方海也<sup>一</sup>リ或<sup>二</sup>リ

一、南ハ山、本丸ノ辰巳午ノ方城ノ統<sup>二</sup>其<sup>一</sup>ヨリ大山

一、西ハ山、本丸ノ未申酉ノ方城ノ統<sup>二</sup>其<sup>一</sup>ヨリ大山

一、北ハ山、本丸ノ戌亥子丑ノ方<sup>一</sup>リ<sup>二</sup>三丁ハ町、<sup>三</sup>地

夫<sup>二</sup>五六<sup>一</sup>リ

一、本丸<sup>二</sup>東西百卅五間、<sup>三</sup>南北百四十七間、<sup>四</sup>町屋ノ地形ヨリ卅二間半

高シ、

一、井ノ敷ニ処<sup>二</sup>一ツ指渡三尺二寸、深二間半、水溜一

一、間、深三尺、

一、本丸ノ大手門迄四百五十間、

一、本丸門ノ下馬迄坂道ノ広十二間、

一、下馬ノ大手門迄道広十五間、

一、子ノ方本丸門東脇三階櫓、長ノ角三階櫓迄

一、間半、

一、石垣高サ子ノ方櫓下ニテ五間五尺、長ノ方

櫓下ニテ九間、

一、長ノ角三階櫓ノ異ノ角三階櫓迄榭長六十四

間打廻、

一、寄貫長五十間打廻、

一、岩岸高、

一、長角櫓下迄十九間一尺、人馬不叶、

一、卯方ニテ三十五間、人馬不叶、

一、巽方ニ櫓下ニテ三十六間、人馬不叶、

一、巽方三階櫓ノ午ノ方埋門迄、

一、榭長八十六間打廻、

一、土手高十二間、

一、埋門土手下ノ沢低迄四十間、人馬不叶、

一、沢幅三十八間、深廿間、

一、峰ノ沢低迄、百十三間、

一、嶺ヨリ本丸迄指渡三丁十一間、此嶺ヨリ

本丸ヨリ七間四尺高シ、

一、午ノ方埋門ノ同方切通門迄、

一、榭長八十七間打廻、

一、土手高七間、

一、切通門ヨリ沢低迄五十二間、人馬不叶、

一、沢幅四十二間、深廿五間、

一、嶺ヨリ沢低迄百卅八間、

一、嶺ヨリ本丸迄指渡三丁五十間、此嶺本丸

ノ十一間高シ、

一、午ノ方切通門ヨリ西ノ方ニ階門迄、

一、榭長百八間打廻、

一、土手高五間、

一、押角榭ヨリ沢低迄四十六間、人馬不叶、

一、沢幅卅間、深廿五間、

一、嶺ヨリ水底迄百十六間、

一、嶺ヨリ本丸迄指渡三丁十二間、

一、嶺本丸ヨリ十六間四尺高シ、

一、申ノ方堀切、幅廿六間、深八間、長卅四間、

馬足不叶、

一、西方ニ階門ノ子ノ方西脇三階櫓迄長や七十

一間半、

一、石垣ニ階門台高二間半、長十八間打廻、長

屋下高四間半、櫓下高三間半、

一、西方長屋石垣下ヨリ沢底迄十間半、

一、同方嶺ヨリ沢底迄十三間四尺、

一、同門ヨリ嶺迄指渡一町二間、

一、此峰本丸ノ三間高シ、馬足不叶、

一、本丸門見付榭長六十七間打廻し、右土手高

東ノ端ニテ五間、西端ニテ廿一間、

一、本丸ト蔵屋敷ノ間仕切、本丸ノ大手門迄道

ノ東脇榭、

一、本丸長ノ角櫓下ノ沢川迄榭長百十七間打廻、

土手ノ高サ十四間、長五十間、

一、沢門ノ中門迄榭長百六間打廻、土手高サ八

間、

一、中門ノ大手門ノ南脇ニ階櫓迄榭長百間打廻、

土手高サ十間、

一、同道西脇榭本丸門見付榭ノ中門迄百十間打

廻、中門西脇石垣高サ二間、

一、沢門ノ蔵屋敷脇清水門ニ階門迄道下坂長

百十間、道広十二間ノ七間迄、土手高サ八

間、長卅四間、清水井長二間、横二尺、深

二尺、

一、蔵屋敷東西八十間、本丸ヨリ卅二間低、南ノ

方清水門ノ東溜迄榭長五十間、西榭下土手高

サ五間、

一、蔵屋敷ノ南脇清水ニ階門、台石垣高サ三

間、長一拾七間打廻、

一、同門ノ異ノ門迄榭長四十間打廻、榭長廿

間、口八間、嶺高五尺、

一、東方堀ノ二階門脇ヨリ子ノ方升形ニ階

門迄長四十間、堀口十五間、深二間半、

一、嶺高<sup>二</sup>西脇榭ノ門ヲキニテ五間、<sup>三</sup>東端二間、

一、北ノ堀長五十七間、口十七間、深三間、

一、嶺高南卅五間、西ニテ十五間、東北ニテ二

間二尺、

一、二ノ丸<sup>二</sup>東西百七十二間、<sup>三</sup>本丸ノ廿七間低、

一、井ノ敷五ヶ処、二ツ指渡三尺五寸、深五間、

水溜一間半、三ツ指渡四尺、深四間半、水溜

二間、

一、西ノ方榭ノ同方山ノ峰迄一丁四十六間、此

嶺二ノ丸より地形廿一間半高シ、

一、南ノ方地形ノ沢低迄嶺高サ三間、

一、同方山嶺ノ沢底迄二十三間、

一、同嶺ノ二ノ丸迄指渡一町廿二間、此嶺二ノ

丸地形二十二間高シ、

一、同沢末ノ溜池二ノ丸ノ異ノ方、

一、東西五十三間、南北七十六間、深二間三

尺、水落堀幅六間、深二間半、

一、大手門ノ西脇石垣土手、南脇櫓下石垣<sup>二</sup>高五間、<sup>三</sup>長十六

間打、北脇榭下石垣<sup>二</sup>長九間打廻、

一、同西垣外ノ北ノ方蔵屋敷門脇迄榭下土手

高六間三尺、長六十間、

一、石垣土手ノ上トモニ榭長九十五間打廻、

一、表門兩脇ノ榭下石垣南溜池ノ北裏門脇高三

尺、長百廿三間打廻、

一、表門ノ大手門迄一丁卅間、

一、裏門ノ乾ノ角迄二ノ丸ト屋敷ノ間仕切榭

高百七間

一、裏門ノ蔵屋敷門迄榭長五十間、

一、西屋敷<sup>二</sup>東西百二間地形二ノ丸ト同、<sup>三</sup>深四間、

一、井敷三ヶ処之内ニツ指渡四尺、深四間、水

溜一間、一ツ指渡三尺五寸、深五間、水溜一

間半、

一、西ノ方山峰ノ榭際迄二丁卅間、山嶺西屋

敷地形廿四間高シ、

一、北ノ方榭下同屋敷前小路土橋ノ上ノ溜池<sup>二</sup>東

卅五間、<sup>三</sup>南北廿

六間、<sup>四</sup>深一

一、同溜池ノ水落ノ沢幅十八間、深五間半、

一、同沢末大手門前小路土橋ノ上、

一、溜池東西百十間、南北廿間、深四間、

一、同土橋下ノ沢幅八間、深サ四間半、

一、花壇<sup>二</sup>本丸ノ東<sup>三</sup>東西五十間、<sup>四</sup>本丸地ニ卅六間低<sup>五</sup>花壇ノ

方川<sup>二</sup>幅百廿三間、<sup>三</sup>川幅

十五間、<sup>四</sup>向岸高廿二間、

一、城下川橋幅三間半、長六十間、本丸地形ニ

卅四間五尺ひくし、

一、橋、大手門ノ橋迄百八十五間、道ノ広四十

間より十五間迄、

一、同川よけ石垣橋ノ南高三間、長六十間、

橋ノ北高二間、長七十六間、

一、東岸橋下高二間、長五十五間半、南北ト

モ二、

一、同川かけ前岸高下、本丸ノ戌ノ方岸高八間

一尺、本丸ノ子ノ方岸高六間半、本丸ノ丑ノ

方岸高サ六間、

一、同川かけ向岸ノ高下<sup>二</sup>本丸ノ子ノ方岸高十間、<sup>三</sup>本丸ノ

丑ノ方岸高四間、<sup>四</sup>此地形本丸ノ

指渡三丁廿間、<sup>五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>十二</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>十三</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>十四</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>十五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>十六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>十七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>十八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>十九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>二十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>二十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>二十二</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>二十三</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>二十四</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>二十五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>二十六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>二十七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>二十八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>二十九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>三十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>三十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>三十二</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>三十三</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>三十四</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>三十五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>三十六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>三十七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>三十八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>三十九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>四十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>四十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>四十二</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>四十三</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>四十四</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>四十五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>四十六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>四十七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>四十八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>四十九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>五十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>五十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>五十二</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>五十三</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>五十四</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>五十五</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>五十六</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>五十七</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>五十八</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>五十九</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>六十</sup>本

丸ノ指渡三丁廿間、<sup>六十一</sup>此地形本丸ノ

指渡九丁五十五間、<sup>六十二</sup>本

(後略)

享保八癸卯八月廿五日

「仙台市史特別編7城館」  
(二〇〇六 仙台市)



仙台城普請奉窺候絵図

一、本丸中曲輪西脇柵外土手四拾四坪余崩申候、  
 二、同所清水門内土手拾貳坪崩申候、  
 三、同所東丸土手五拾八坪崩申候、  
 四、同所東丸土手五百拾坪余崩申候、  
 五、同所子門東脇土手三ヶ所ニ而、百拾坪余崩申候、  
 六、二ノ丸大手門南脇櫓下土手三ヶ所ニ而、百三拾五坪余崩申候、  
 七、同所用所東之方堀下土手百貳拾坪余崩申候、  
 八、同所大手門与詰之門之間、水落堀土手式拾五坪余崩申候、  
 九、右八ヶ条如元繪申度候、  
 十、本丸与二ノ丸之間、溜池江水落候所、山沢込連々こみ・砂押掛、洪水之節こみ留り兼申候間、長三拾八間、幅拾九間、こみさらひ仕、有来ルこみ留沓ヶ所ニ而ハこみ留り兼申候間、かふせ絵図之通、喰違ニこみ留沓ヶ所新規ニ相附、且又有来ルこみ留、洪水之節破損可仕様子ニ御座候間、絵図之通附土手申度候、  
 十一、同所溜池山沢込連々こみ・砂押掛、埋水持不足ニ罷成、洪水之節平地迄水押上ケ申候間、長四拾貳間、横三拾間、こみさらひ申度候、  
 十二、二ノ丸大手門与詰之門之間、土橋水抜口せまく、洪水之節水払兼申候間、水抜口高サ三尺五寸ニ築直申度候、  
 十三、同所水落堀、洪水之節溜池込之払水はき出シ兼、平地迄押上ケ申候間、朱星之通水抜穴掘通、湧上りに仕度候、  
 右之通、当閏七月二日、大雨洪水ニ而崩申候間、右拾式ヶ条之通普請奉窺候、以上、  
 享保六年十一月五日 松平陸奥守御前兼  
 伊達吉村 御奉行  
 御名乗無  
 ○普請窺絵図に書き写されたもの。

「仙台市史特別編7城館」(二〇〇六 仙台市)



仙台城修復伺絵図 享保6年(1721) 仙台市博物館所蔵

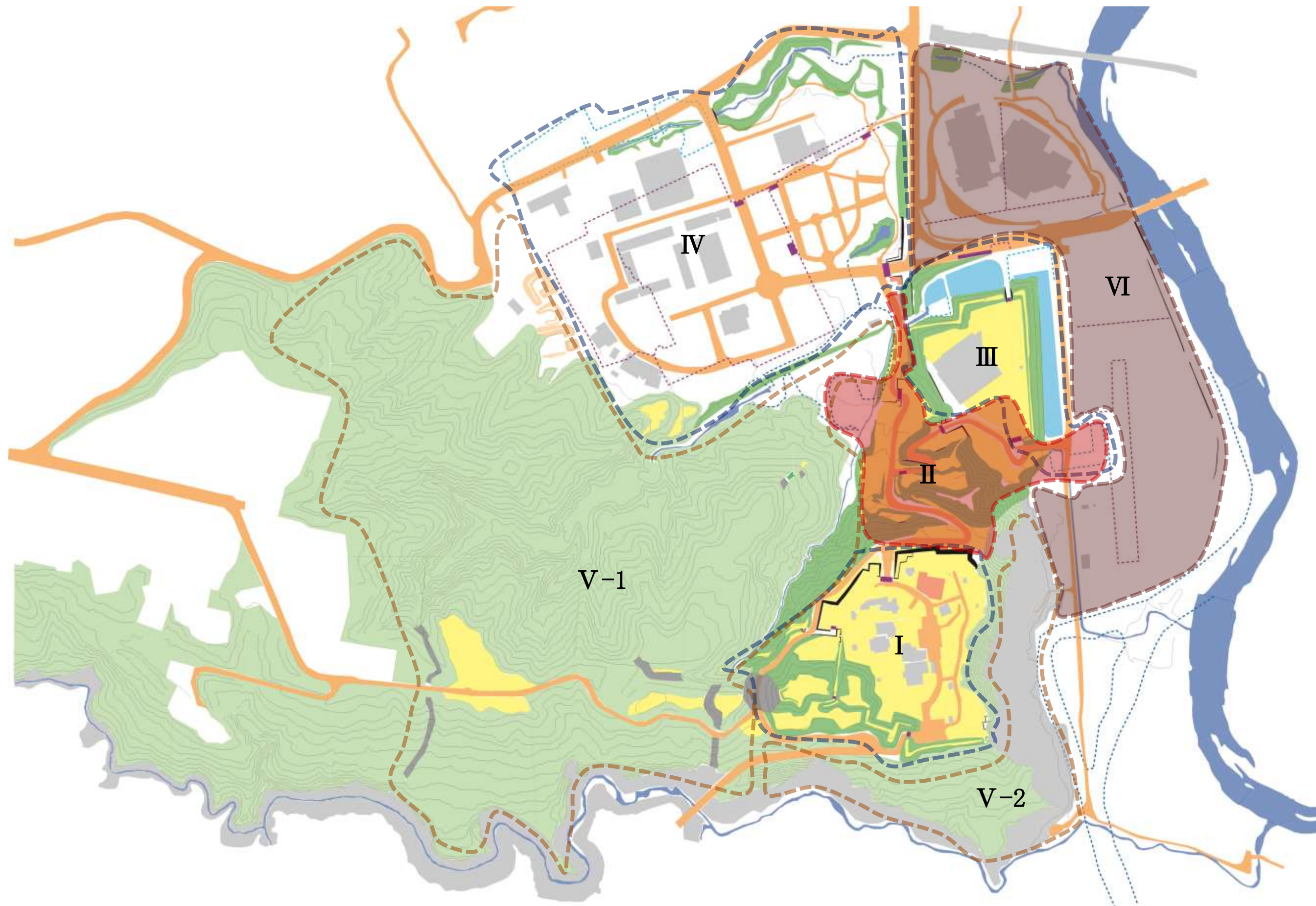


仙台城下絵図 寛政元年(1789) 仙台市博物館所蔵



仙台城修復伺絵図 元文4年(1739) 仙台市博物館所蔵





地区区分图